

# デジタルメディア処理1

担当: 井尻 敬

## スケジュール

10/01 インTRODクシヨン1: デジタル画像とは, 量子化と標本化, Dynamic Range

10/08 インTRODクシヨン2: デジタルカメラ, 人間の視覚, 表色系

10/15 フィルタ処理1: トーンカーブ, 線形フィルタ

10/29 フィルタ処理2: 非線形フィルタ, ハーフトーニング

11/05 フィルタ処理3: 離散フーリエ変換と周波数フィルタリング

11/12 画像処理演習1: python入門 (PC教室9,10)

11/19 画像処理演習2: フィルタ処理 (PC教室9,10) ※

11/26 画像処理演習3: フィルタ処理 (PC教室9,10, 前半部分の課題締め切り 11/29 23:59)

12/03 画像処理演習4: フィルタ処理 (PC教室9,10)

12/10 画像処理演習5: フィルタ処理 (PC教室9,10, 後半部分の課題締め切り 12/20 23:59)

12/17 画像の幾何変換: アファイン変換と画像補間

01/07 ConvolutionとDe-convolution (進度に合わせて変更する可能性有り)

01/14 画像圧縮 (進度に合わせて変更する可能性有り)

01/21 後半のまとめと期末試験

## Contents

### 達成目標

- フーリエ級数展開の概要を説明できる
- 離散フーリエ変換を計算できる
- 周波数フィルタ処理の計算法と効果を説明できる

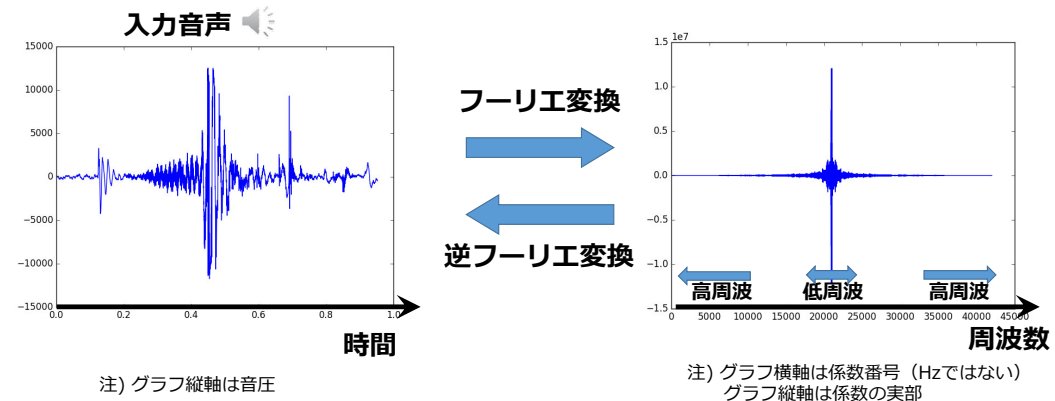
### Contents

- フーリエ変換の概要
- フーリエ級数展開
- オイラーの式と複素数表現
- 離散フーリエ変換
- 周波数フィルタリング

## フーリエ変換とは (音)

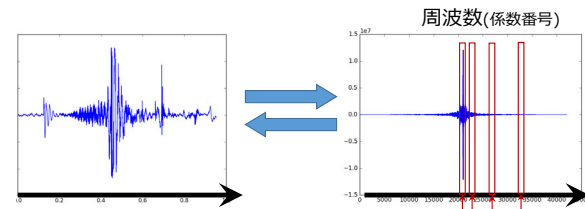
FourierSound.py

- 横軸が時間の関数を、横軸が周波数の関数に変換する手法

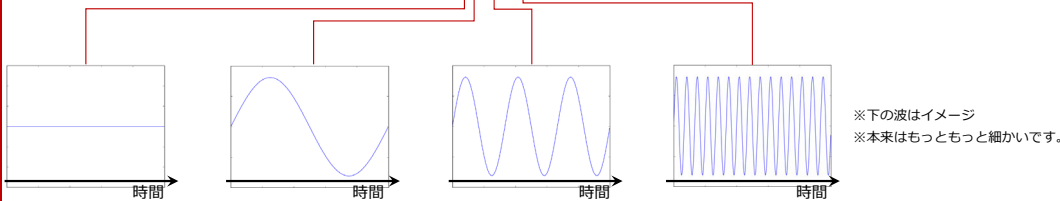


# フーリエ変換とは（音）

FourierSound.py



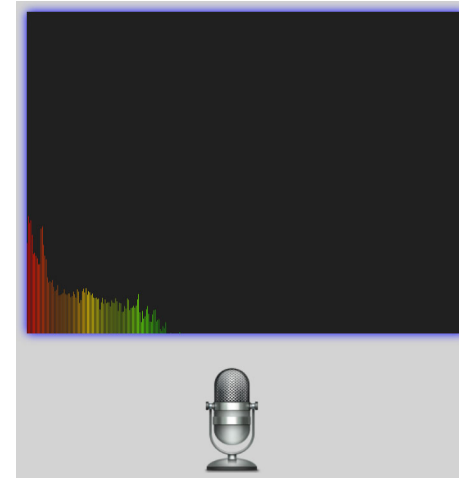
- フーリエ変換後の関数は元信号に含まれる正弦波の量を示す
- 中央に近いほど低周波, 外ほどが高周波
- 中央は, 定数項で直流成分と呼ばれる
  - 直流成分があるので正弦波の組み合わせでも平均値が0でない信号を作れる



## 音の実時間フーリエ変換

データ量に依存するが1D/2D  
のフーリエ変換は高速なので  
実時間解析可能

Spector Analyzer  
by Hidetomo Kataoka @ 立命館大



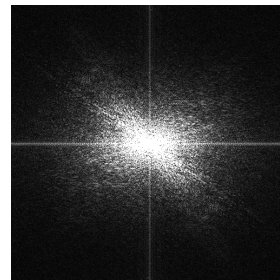
# フーリエ変換とは（画像）

- 横軸が時間/空間の関数を、横軸が周波数の関数に変換する手法



画像  
(2D空間に画素が並ぶ)

フーリエ変換  
逆フーリエ変換

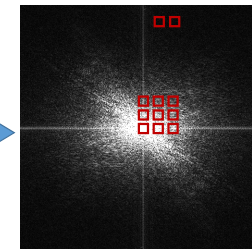


周波数画像  
(画素は特定周波数の大きさを示す)

# フーリエ変換とは（画像）

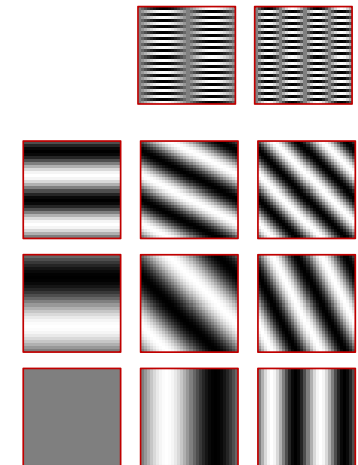


フーリエ  
変換



- フーリエ変換後の画像の画素は元信号に含まれる正弦波の量を示す
- 中央付近が低周波, 外側が高周波
- 中央画素は, 定数項 (直流成分)

→ 任意の画像はしましま画像の和で表現できる



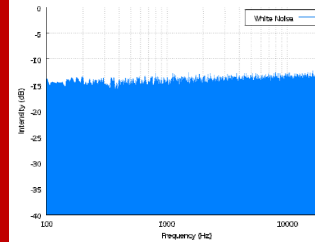
この図はイメージです  
本来は現画像と同サイズで  
もっと細かいです

## フーリエ変換とは（画像）

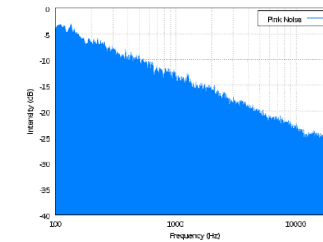
FourierPaint.py  
FourierImg.py

## 余談（ノイズ）

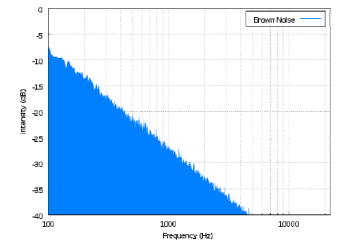
ノイズ（雑音）には、それが含む周波数の分布に応じて特定の名前が付いたものがある



ホワイトノイズ  
スペクトルが一様に分布



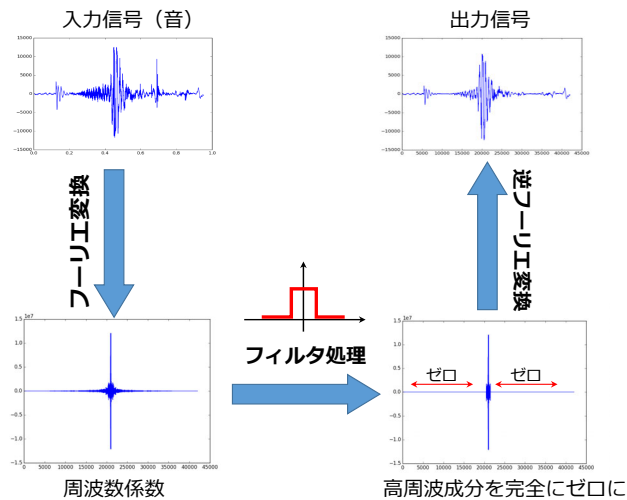
ピンクノイズ  
スペクトル分布が  $1/f$  に比例



ブラウンノイズ  
スペクトル分布が  $1/f^2$  に比例

## 周波数フィルタリング（音）

FourieSound.py



フーリエ変換により周波数を考慮したfilterが設計できる

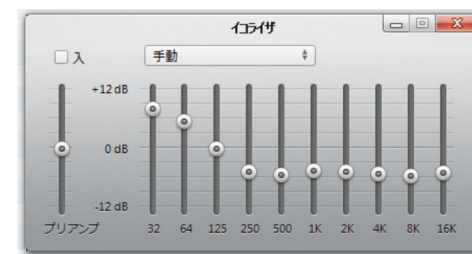
1. フーリエ変換し
2. 周波数空間でフィルタを掛け
3. 逆フーリエ変換

## 周波数フィルタリング（音）

### イコライザ

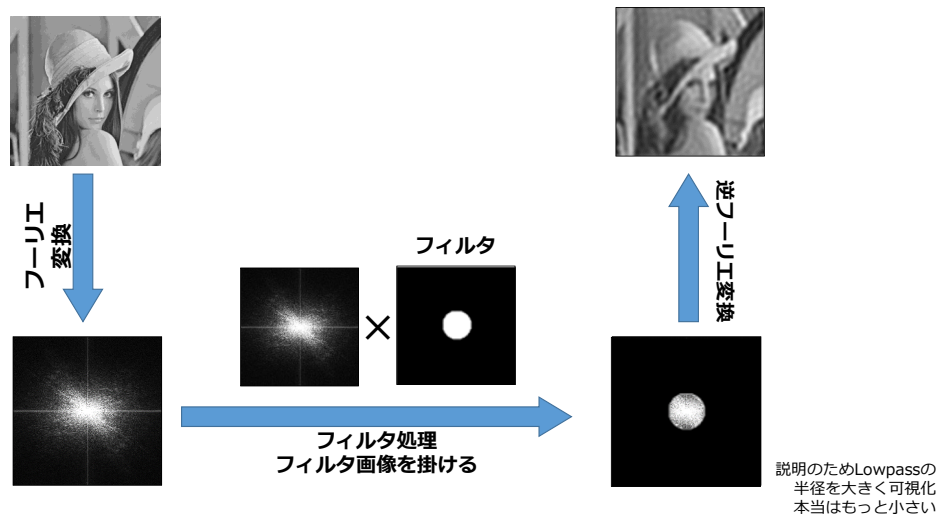
周波数ごとにボリュームを調整する音質調整器

1. 音源をフーリエ変換し
2. 周波数ごとにフィルタを掛け
3. 逆フーリエ変換

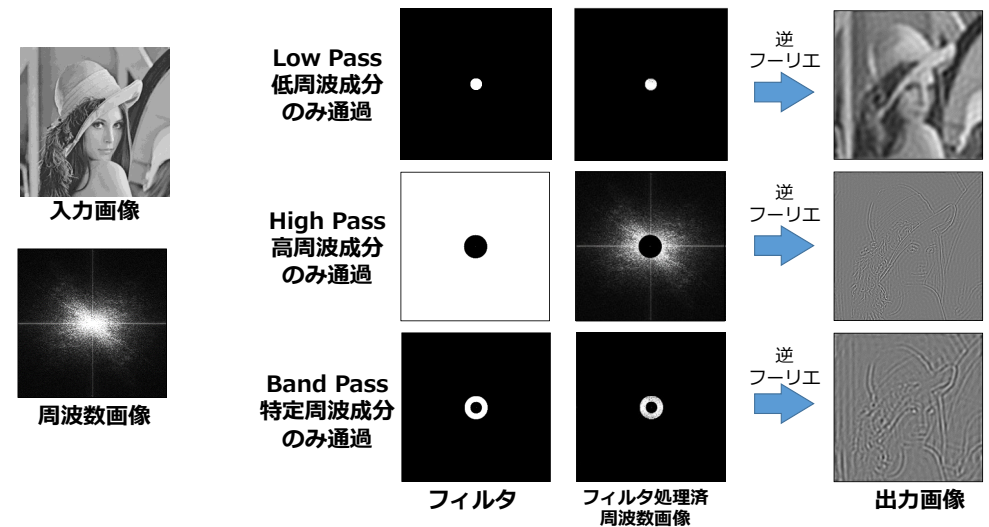


Itunesのイコライザ

## 周波数フィルタリング（画像）

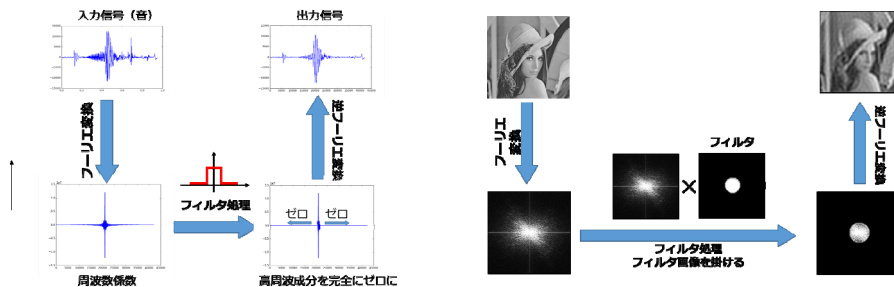


## 周波数フィルタリング（画像）



## まとめ：音・画像のフーリエ変換の概要

- フーリエ変換は、横軸時間の関数を横軸周波数の関数に変換する
  - 逆フーリエ変換も定義される
  - 2次元フーリエ変換は画像へ適用できる
  - 周波数空間でフィルタ処理すると、周波数に特化した信号処理が可能



## フーリエ級数展開（の簡単な説明）

注意）

本講義では、フーリエ変換の意味的な理解と画像処理応用に重点を置きます。  
証明と導出の詳細は、信号処理の講義をとるか「[金谷健一:これなら分かる  
応用数学教室](#)」を参照してください。

## 練習

三角関数を合成せよ

$$a \sin \theta + b \cos \theta$$

$n$ と $m$ を非負整数として以下を計算せよ

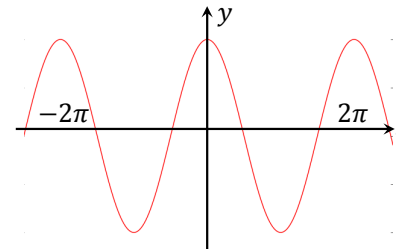
$$\int_{-T/2}^{T/2} \sin \frac{2\pi n}{T} x \cos \frac{2\pi m}{T} x dx$$

$$\int_{-T/2}^{T/2} \sin \frac{2\pi n}{T} x \sin \frac{2\pi m}{T} x dx$$

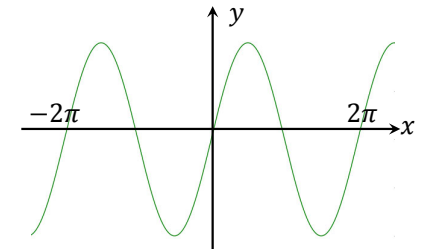
$$\int_{-T/2}^{T/2} \cos \frac{2\pi n}{T} x \cos \frac{2\pi m}{T} x dx$$

## 三角関数

$$y = \cos x$$



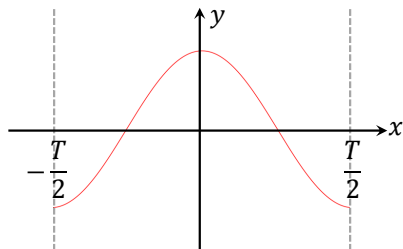
$$y = \sin x$$



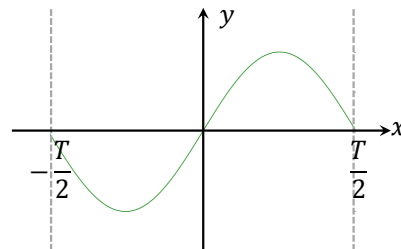
まあこれはいいですね

## 三角関数

$$y = \cos \frac{2\pi}{T} x = \cos \omega_0 x$$



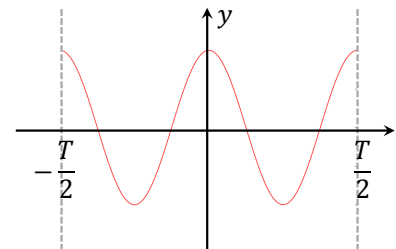
$$y = \sin \frac{2\pi}{T} x = \sin \omega_0 x$$



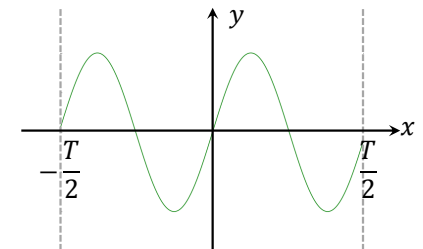
$T$ を周期,  $\omega_0$ を基本(角)周波数と呼びます  
[- $T/2$ ,  $T/2$ ]でひと周期の波を取得できました

## 三角関数

$$y = \cos 2\omega_0 x$$



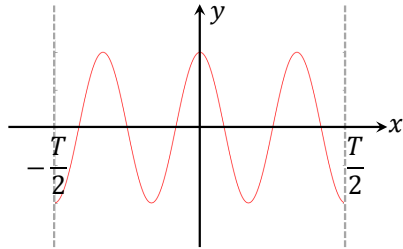
$$y = \sin 2\omega_0 x$$



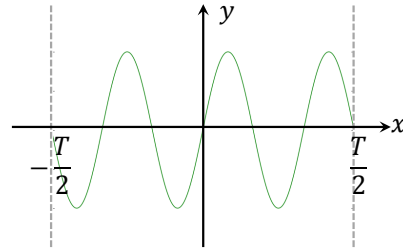
三角関数の引数を2倍すると, 周波数が2倍に、周期が1/2倍になります

## 三角関数

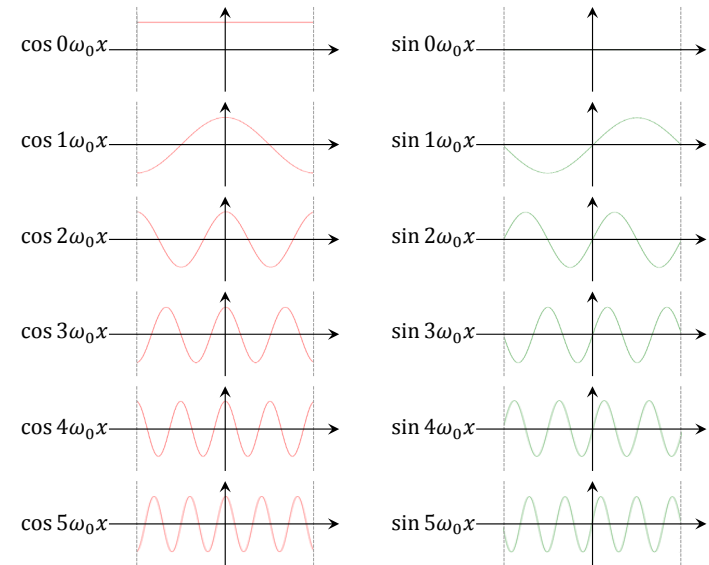
$$y = \cos 3\omega_0 x$$



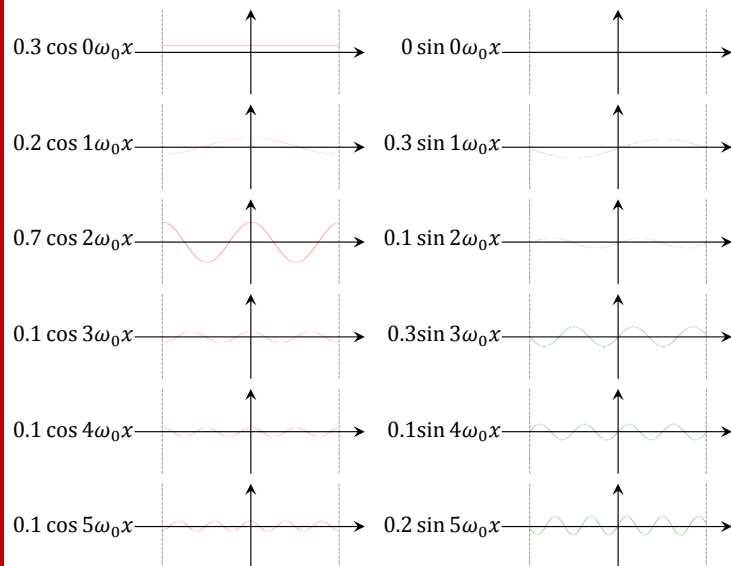
$$y = \sin 3\omega_0 x$$



三角関数の引数を3倍すると、周波数が3倍に、周期が1/3倍になります



こんな感じで基本周波数の整数倍の波を考える

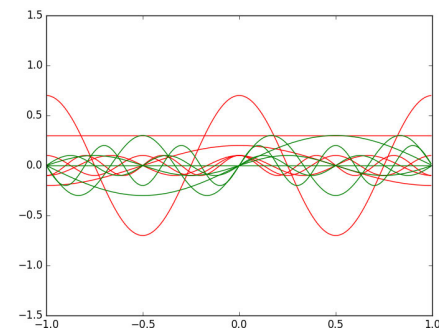


こんな感じで基本周波数の整数倍の波を考える

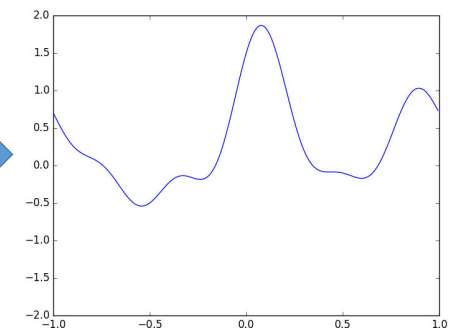
それぞれを定数倍する  
(今回はランダムに)

で、それを全部足し合わせてみる

$$0.3 \cos 0\omega_0 x + 0.2 \cos 1\omega_0 x + 0.7 \cos 2\omega_0 x + 0.1 \cos 3\omega_0 x + 0.1 \cos 4\omega_0 x + 0.1 \cos 5\omega_0 x + 0.0 \sin 0\omega_0 x + 0.3 \sin 1\omega_0 x + 0.1 \sin 2\omega_0 x + 0.3 \sin 3\omega_0 x + 0.1 \sin 4\omega_0 x + 0.2 \sin 5\omega_0 x$$



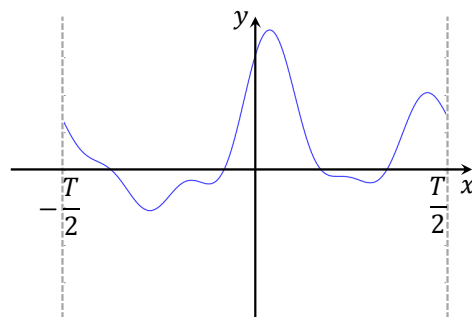
和



## フーリエ級数展開のとても簡単な説明

(1)  $[-T/2, T/2]$  の周期関数は、周期は  $T/k$  ( $k$  は正整数) の三角関数の重ね合わせで表現できる (証明など詳細は信号処理の講義へ)

(2) 合成後の周期関数を受け取ると、この合成後の波から合成前の各関数の係数を推定できる (どうやって?)



0.3 $\cos 0\omega_0 x$	0.0 $\sin 0\omega_0 x$
0.2 $\cos 1\omega_0 x$	0.3 $\sin 1\omega_0 x$
0.7 $\cos 2\omega_0 x$	0.1 $\sin 2\omega_0 x$
0.1 $\cos 3\omega_0 x$	0.3 $\sin 3\omega_0 x$
0.1 $\cos 4\omega_0 x$	0.1 $\sin 4\omega_0 x$
0.1 $\cos 5\omega_0 x$	0.2 $\sin 5\omega_0 x$

『この元信号の中には、 $\cos 2\omega_0 x$  の成分が 0.7 だけ含まれている』というのが分かる

## フーリエ級数展開のとても簡単な説明

(2) 合成後の周期関数  $f(x)$  を受け取ると、この合成後の波から合成前の各関数の係数を推定する ←どうやって??

例  $\cos 2\omega_0 x$  の係数を知りたい場合...

1)  $f(x)$  に  $\cos 2\omega_0 x$  を掛けた関数を作る

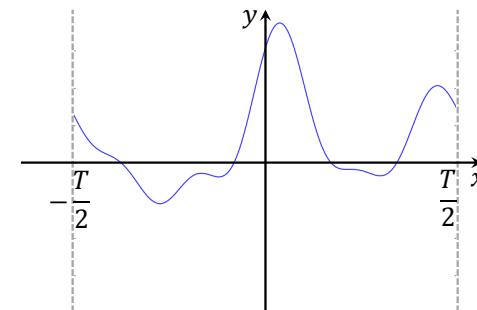
$$f(x) \cos 2\omega_0 x$$

2) 係数  $\frac{2}{T}$  もかける

$$\frac{2}{T} f(x) \cos 2\omega_0 x$$

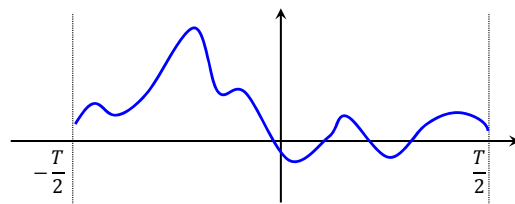
3) これを周期分だけ積分すると係数が得られる

$$\text{係数} = \frac{2}{T} \int_{-T/2}^{T/2} f(t) \cos 2\omega_0 t \, dt$$



## フーリエ級数

区間  $[-\frac{T}{2}, \frac{T}{2}]$  上の連続関数  $f(t)$  は、フーリエ級数で表現できる。



$$f(t) = \frac{a_0}{2} + \sum_{k=1}^{\infty} (a_k \cos k\omega_0 t + b_k \sin k\omega_0 t)$$

$$a_k = \frac{2}{T} \int_{-T/2}^{T/2} f(t) \cos k\omega_0 t \, dt$$

$$b_k = \frac{2}{T} \int_{-T/2}^{T/2} f(t) \sin k\omega_0 t \, dt$$

$$\omega_0 = \frac{2\pi}{T} : \text{基本周波数}$$

※天下り的な説明で済みません。ここではそういう事実があると知っておいてください。

※詳細な導出と証明は、信号処理の講義、または、『これなら分かる応用数学教室 (金谷健一著)』を参照

## フーリエ級数

区間  $[-\frac{T}{2}, \frac{T}{2}]$  上の連続関数  $f(t)$  は、フーリエ級数で表現できる。

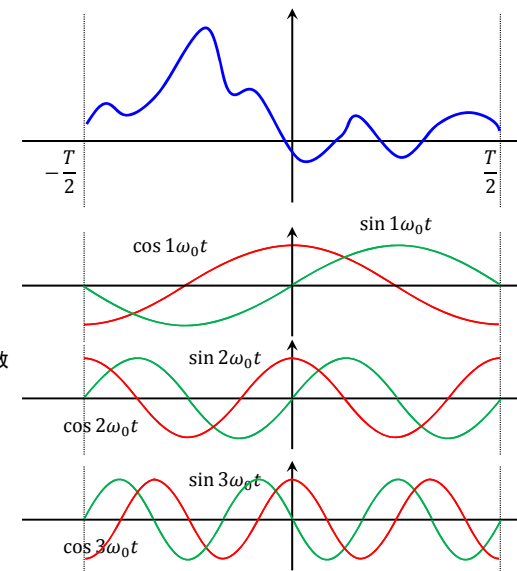
$$f(t) = \frac{a_0}{2}$$

$$+ a_1 \cos 1\omega_0 t + b_1 \sin 1\omega_0 t$$

$$+ a_2 \cos 2\omega_0 t + b_2 \sin 2\omega_0 t$$

$$+ a_3 \cos 3\omega_0 t + b_3 \sin 3\omega_0 t$$

$$+ \dots$$



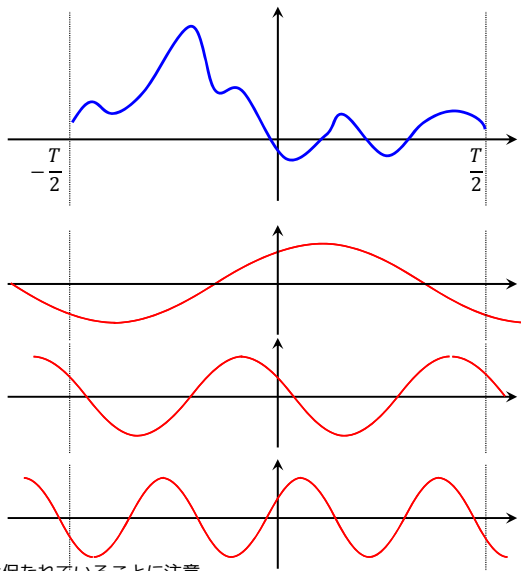
# フーリエ級数

区間 $[-\frac{T}{2}, \frac{T}{2}]$ 上の連続関数 $f(t)$ は、  
フーリエ級数で表現できる。

$$f(t) = \frac{a_0}{2} + a_1' \sin(1\omega_0 t + \phi_1) + a_2' \sin(2\omega_0 t + \phi_2) + a_3' \sin(3\omega_0 t + \phi_3) + \dots$$

「sin と cos の振幅を変えて足す」とも思えるが、  
「 $a_k$  と  $b_k$  で振幅と位相ずれを制御する」とも見てよい

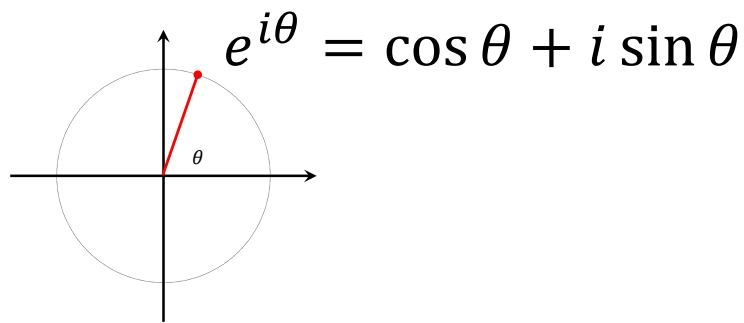
位相がずれても、 $-\frac{T}{2}$  と  $\frac{T}{2}$  における位置は同じなので、周期性は保たれていることに注意



## Contents

- フーリエ変換の概要
- フーリエ級数展開
- **オイラーの式と複素数表現**
- 離散フーリエ変換
- 周波数フィルタリング

# オイラーの式



$e^{i\theta}$  はガウス平面における単位円に乗る

これはもうこういう表記法だと思って覚えてください

練習) 複素数の積を求めよ

$$a (\cos \theta + i \sin \theta) * b (\cos \phi + i \sin \phi)$$

以下の関係を証明せよ

$$e^{i\theta} e^{i\phi} = e^{i(\theta+\phi)}$$

$$(e^{i\theta})^n = e^{in\theta}$$

$$\cos \theta = \frac{e^{i\theta} + e^{-i\theta}}{2}$$

$$\sin \theta = \frac{e^{i\theta} - e^{-i\theta}}{2i}$$



# フーリエ級数の複素数表現

区間 $\left[-\frac{T}{2}, \frac{T}{2}\right]$ 上の連続関数 $f(t)$ は、フーリエ級数で表現できる。

$$f(t) = \frac{a_0}{2} + \sum_{k=1}^{\infty} (a_k \cos k\omega_0 t + b_k \sin k\omega_0 t)$$

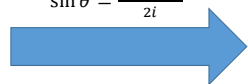
$$a_k = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \cos k\omega_0 t \, dt$$

$$b_k = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \sin k\omega_0 t \, dt$$

$$\omega_0 = \frac{2\pi}{T} : \text{基本周波数}$$

$$\cos \theta = \frac{e^{i\theta} + e^{-i\theta}}{2}$$

$$\sin \theta = \frac{e^{i\theta} - e^{-i\theta}}{2i}$$



$$f(t) = \sum_{k=-\infty}^{\infty} C_k e^{ik\omega_0 t}$$

$$C_k = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{-ik\omega_0 t} dt$$

練習: 下の式(1)-(5)より, 式(6),(7)を導け

$$f(t) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} (a_n \cos n\omega_0 t + b_n \sin n\omega_0 t) \quad \dots (1)$$

$$a_k = \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \cos k\omega_0 t \, dt \quad \dots (2)$$

$$b_k = \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \sin k\omega_0 t \, dt \quad \dots (3)$$

$$\cos \theta = \frac{e^{i\theta} + e^{-i\theta}}{2} \quad \dots (4)$$

$$\sin \theta = \frac{e^{i\theta} - e^{-i\theta}}{2i} \quad \dots (5)$$

$$f(t) = \sum_{k=-\infty}^{\infty} C_k e^{ik\omega_0 t} \quad \dots (6)$$

$$C_k = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{-ik\omega_0 t} dt \quad \dots (7)$$

以下のフーリエ級数展開が成り立つものとする,

$$f(t) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} (a_n \cos n\omega_0 t + b_n \sin n\omega_0 t) \quad \dots (1)$$

$$a_k = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \cos k\omega_0 t \, dt, \quad \dots (2)$$

$$b_k = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \sin k\omega_0 t \, dt. \quad \dots (3)$$

一方オイラーの式より,

$$\cos \theta = \frac{e^{i\theta} + e^{-i\theta}}{2}, \quad \sin \theta = \frac{e^{i\theta} - e^{-i\theta}}{2i} \quad \dots (4)$$

が得られる。

式(4)を式(1)へ代入し整理すると、

$$f(t) = \frac{a_0}{2} + \sum_{k=1}^{\infty} \left( a_k \frac{e^{ik\omega_0 t} + e^{-ik\omega_0 t}}{2} + b_k \frac{e^{ik\omega_0 t} - e^{-ik\omega_0 t}}{2i} \right)$$

$$= \frac{a_0}{2} + \frac{1}{2} \sum_{k=1}^{\infty} \left( a_k (e^{ik} s^k + e^{-ik\omega_0 t}) - ib_k (e^{k\omega_0 t\theta} - e^{-k\omega_0 t\theta}) \right)$$

$$= \frac{a_0}{2} + \frac{1}{2} \sum_{k=1}^{\infty} \left( (a_k - ib_k) e^{ik} s^k + b_k (a_k + ib_k) e^{-k\omega_0 t\theta} \right)$$

$$= \sum_{k=-\infty}^{\infty} C_k e^{ik\omega_0 t} \quad \dots (5)$$

ただし,

$$C_k = \begin{cases} \frac{a_k - ib_k}{2} & k > 0 \\ \frac{a_0}{2} & k = 0 \\ \frac{a_{-k} + ib_{-k}}{2} & k < 0 \end{cases} \quad \dots (6)$$

と置いた。

また, 式(6)に式(2)(3)を代入し整理すると,

$$\frac{a_k - ib_k}{2} = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \cos k\omega_0 t \, dt - i \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \sin k\omega_0 t \, dt$$

$$= \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) (\cos k\omega_0 t - i \sin k\omega_0 t) dt$$

$$= \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{-ik\omega_0 t} dt \quad \dots (7)$$

$$\frac{a_{-k} + ib_{-k}}{2} = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \cos -k\omega_0 t \, dt + i \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \sin -k\omega_0 t \, dt$$

$$= \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) (\cos k\omega_0 t + i \sin k\omega_0 t) dt$$

$$= \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{ik\omega_0 t} dt \quad \dots (8)$$

$$\frac{a_0}{2} = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) dt = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{-i0\omega_0 t} dt \quad \dots (9)$$

上記(5,6,7,8,9)より,

$$f(t) = \sum_{k=-\infty}^{\infty} C_k e^{ik\omega_0 t},$$

$$C_k = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{-ik\omega_0 t} dt \quad \dots (10)$$

フーリエ級数展開の複素数表現が得られる。

## まとめ: フーリエ級数展開

※今回は導出と証明を省きました  
詳しく知りたい人は教科書参照

• オイラーの式  $e^{i\theta} = \cos \theta + i \sin \theta$

$$e^{i\theta} e^{i\phi} = e^{i(\theta+\phi)}, \quad (e^{i\theta})^n = e^{in\theta}, \quad \cos \theta = \frac{e^{i\theta} + e^{-i\theta}}{2}, \quad \sin \theta = \frac{e^{i\theta} - e^{-i\theta}}{2i}$$

• フーリエ級数展開: 周期Tを持つ関数は正弦波の重ね合せで表現可

$$f(t) = \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} (a_n \cos k\omega_0 t + b_n \sin k\omega_0 t), \quad a_k = \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \cos k\omega_0 t \, dt, \quad b_k = \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) \sin k\omega_0 t \, dt$$

• フーリエ級数展開 (複素数表現):

上式にオイラーの式を代入すると以下のように変形できる

$$f(t) = \sum_{k=-\infty}^{\infty} C_k e^{ik\omega_0 t}, \quad C_k = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(t) e^{-ik\omega_0 t} dt$$

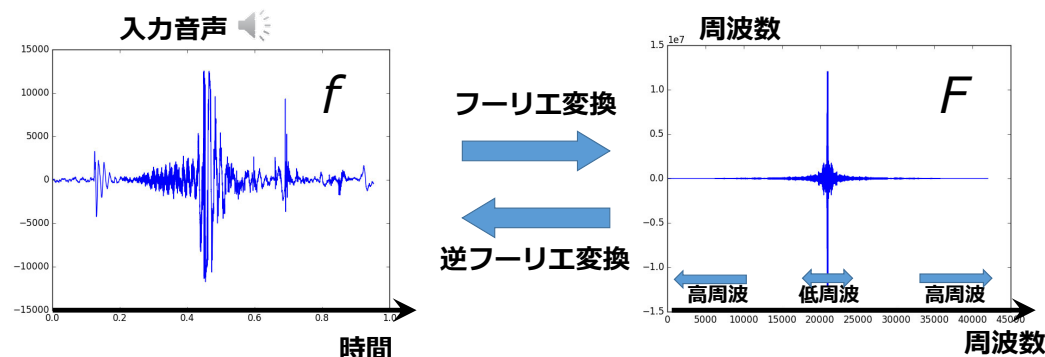
# Contents

- フーリエ変換の概要
- フーリエ級数展開
- オイラーの式と複素数表現
- **離散フーリエ変換**
- 周波数フィルタリング

## フーリエ変換とは

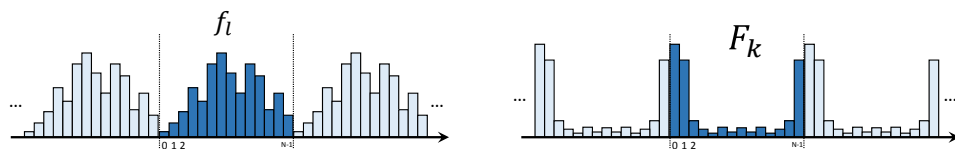
FourierSound.py

- 横軸が時間の関数を、横軸が周波数の関数に変換する手法



## 離散フーリエ変換 (1D)

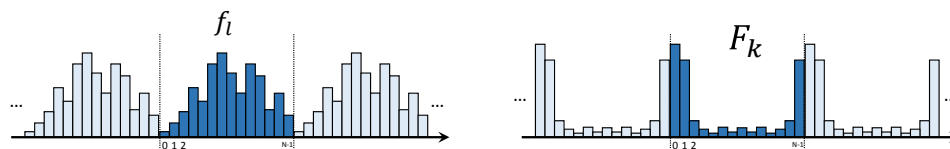
$$\text{フーリエ変換 } F_k = \frac{1}{N} \sum_{l=0}^{N-1} f_l e^{-i \frac{2\pi k l}{N}} \quad \text{逆フーリエ変換 } f_l = \sum_{k=0}^{N-1} F_k e^{i \frac{2\pi k l}{N}}$$



- 周期 $N$ の離散値 $f_l$ を周期 $N$ の離散値 $F_k$ に変換する
- $f_l$ と $F_k$ は複素数 (ただし $f_l$ は実数列のことが多い)
- $f_l$ が実数の場合 $F_k = \overline{F_{-k}}$ が成り立つ ( $F_{-k} = F_{N-k}$ )

## 離散フーリエ変換 (1D)

$$\text{フーリエ変換 } F_k = \frac{1}{N} \sum_{l=0}^{N-1} f_l \left( \cos \frac{2\pi k l}{N} - i \sin \frac{2\pi k l}{N} \right) \quad \text{逆フーリエ変換 } f_l = \sum_{k=0}^{N-1} F_k \left( \cos \frac{2\pi k l}{N} + i \sin \frac{2\pi k l}{N} \right)$$



- 周期 $N$ の離散値 $f_l$ を周期 $N$ の離散値 $F_k$ に変換する
- $f_l$ と $F_k$ は複素数 (ただし $f_l$ は実数列のことが多い)
- $f_l$ が実数の場合 $F_k = \overline{F_{-k}}$ が成り立つ ( $F_{-k} = F_{N-k}$ )

## 離散フーリエ変換の計算例

$N = 8$  のとき

入力:  $f_0, f_1, f_2, f_3, f_4, f_5, f_6, f_7$

$$F_k = \frac{1}{N} \sum_{l=0}^{N-1} f_l e^{-i \frac{2\pi k l}{N}}$$

↑複素数とかできて  
ややこしそうだけど  
ただの和分

$$F_0 = \frac{1}{8} \left[ f_0 \left( \cos \frac{2\pi 0}{8} + i \sin \frac{2\pi 0}{8} \right) + f_1 \left( \cos \frac{2\pi 0}{8} + i \sin \frac{2\pi 0}{8} \right) + \dots + f_7 \left( \cos \frac{2\pi 0}{8} + i \sin \frac{2\pi 0}{8} \right) \right]$$

$$F_1 = \frac{1}{8} \left[ f_0 \left( \cos \frac{2\pi 0}{8} + i \sin \frac{2\pi 0}{8} \right) + f_1 \left( \cos \frac{2\pi 1}{8} + i \sin \frac{2\pi 1}{8} \right) + \dots + f_7 \left( \cos \frac{2\pi 7}{8} + i \sin \frac{2\pi 7}{8} \right) \right]$$

$$F_2 = \frac{1}{8} \left[ f_0 \left( \cos \frac{2\pi 0}{8} + i \sin \frac{2\pi 0}{8} \right) + f_1 \left( \cos \frac{2\pi 2}{8} + i \sin \frac{2\pi 2}{8} \right) + \dots + f_7 \left( \cos \frac{2\pi 14}{8} + i \sin \frac{2\pi 14}{8} \right) \right]$$

$$F_3 = \frac{1}{8} \left[ f_0 \left( \cos \frac{2\pi 0}{8} + i \sin \frac{2\pi 0}{8} \right) + f_1 \left( \cos \frac{2\pi 3}{8} + i \sin \frac{2\pi 3}{8} \right) + \dots + f_7 \left( \cos \frac{2\pi 21}{8} + i \sin \frac{2\pi 21}{8} \right) \right]$$

⋮

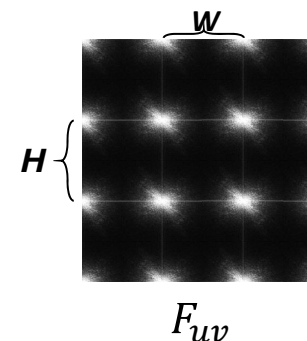
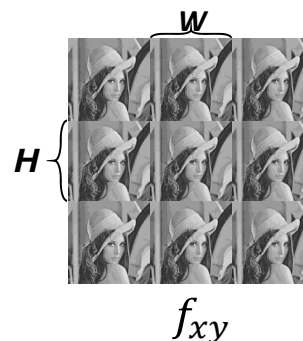
## 離散フーリエ変換 (2D)

フーリエ変換:

$$F_{uv} = \frac{1}{WH} \sum_{y=0}^{H-1} \sum_{x=0}^{W-1} f_{xy} e^{-\frac{2\pi x u}{W}} e^{-\frac{2\pi y v}{H}}$$

逆フーリエ変換:

$$f_{xy} = \sum_{v=0}^{H-1} \sum_{u=0}^{W-1} F_{uv} e^{\frac{2\pi x u}{W}} e^{\frac{2\pi y v}{H}}$$



縦横方向に周期H/Wで繰り返す離散値  $f_{xy}$  を, 離散値  $F_{uv}$  に変換

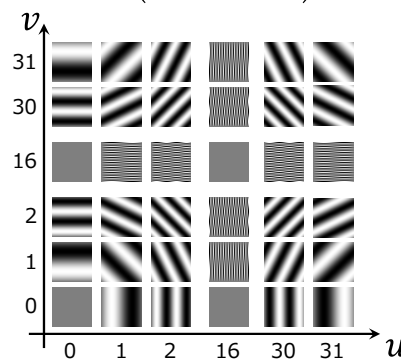
$f_{xy}$  と  $F_{uv}$  は複素数数列.

ただし,  $f_{xy}$  は画像 (実数列) のことが多い

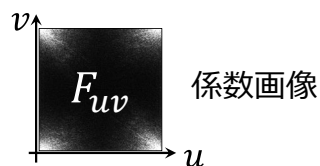


$$f_{xy} = \sum_{v=0}^{H-1} \sum_{u=0}^{W-1} F_{uv} e^{\left( \frac{2\pi x u}{W} + \frac{2\pi y v}{H} \right) i}$$

$$W=H=32 \text{ のときの } \sin \left( \frac{2\pi x u}{W} + \frac{2\pi y v}{H} \right)$$



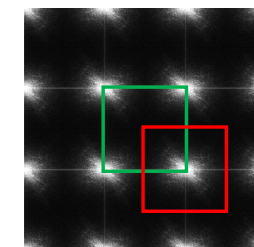
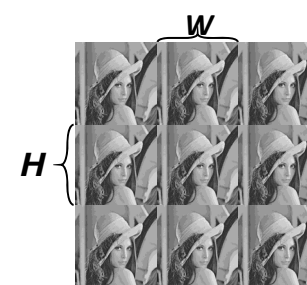
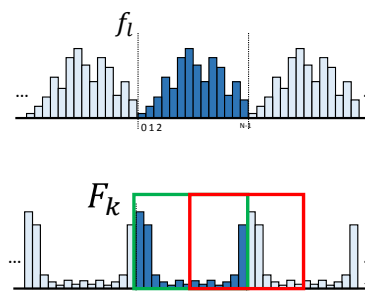
$F_{u,v}$  は上の  $(u, v)$  番目の画像の係数  
実際は  $F_{u,v}$  は複素数画像



係数画像

- $F_{0,0}$  は定数 (直流成分) の係数
- $F_{u,v}$  は, 画像区間において『縦に  $u$  回・横に  $v$  回振動する正弦波画像』の係数
- $U=v=N/2$  がもっとも高周波で,  $u=N-1$  は  $u=1$  の正弦波と同じ周波数 (位相は逆)

## Shiftの話

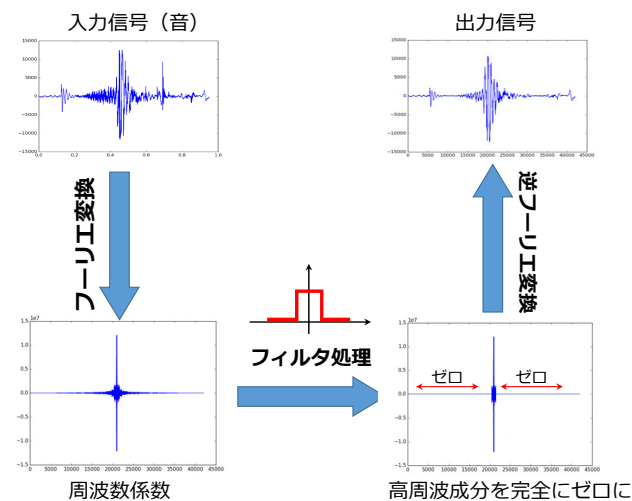


- フーリエ変換を実装すると, ピークが端に来る変換結果になる
  - 上図緑四角: これは間違いじゃない
  - 低周波成分を中心においたほうが分かりやすいので 上図赤四角の位置を出力することが多い
  - このshiftを行なう関数が用意されていることも → `np.fft.ifftshift()`

# Contents

- フーリエ変換の概要
- フーリエ級数展開
- オイラーの式と複素数表現
- 離散フーリエ変換
- 周波数フィルタリング

## 周波数フィルタリング（音）

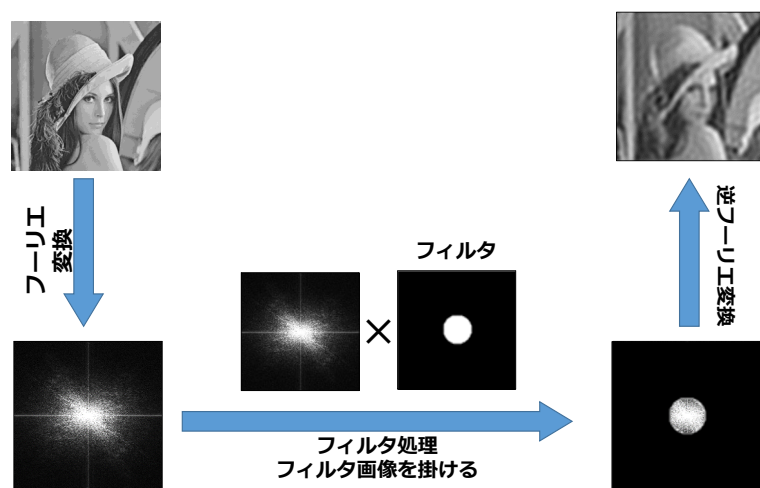


フーリエ変換により周波数を考慮したfilterが設計できる

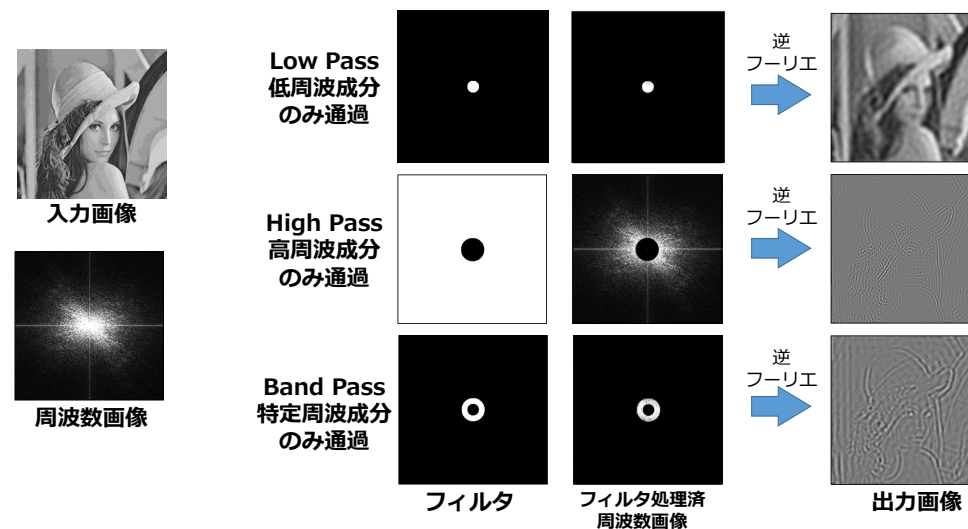
1. フーリエ変換し
2. 周波数空間でフィルタを掛け
3. 逆フーリエ変換

さっきのスライドです！

## 周波数フィルタリング（画像）



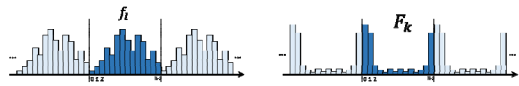
## 周波数フィルタリング（画像）



# まとめ：離散フーリエ変換と周波数フィルタ

離散フーリエ変換（1D/2D）の実装方法を解説した

$$\text{フーリエ変換 } F_k = \frac{1}{N} \sum_{l=0}^{N-1} f_l e^{-i \frac{2\pi k l}{N}} \quad \text{逆フーリエ変換 } f_l = \sum_{k=0}^{N-1} F_k e^{i \frac{2\pi k l}{N}}$$



周波数空間でマスクを掛ける周波数フィルタを紹介した

